

水曜通信 1

東北学院宗教センター編

2020年
9月

LIFE

LIGHT

LOVE



「宗教センター発足にあたって」

水曜公開礼拝は、私立大学研究ブランディング事業の一環として実施され、「水曜通信」を発行してまいりましたが、この4月から発足した東北学院宗教センターにおきまして、本業務を引き継ぎ、通信を発行いたします。今後皆様への暖かい御支援と御協力を賜りますように心よりお願い申し上げます。

東北学院宗教センター所長（院長・学長） 大西 晴樹

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、現在水曜礼拝は中止しております。今後の開催については大学ホームページでご確認下さい。

第30回 水曜礼拝報告（説教：松本宣郎、奏楽：小野なおみ）

2020年2月19日（水）18:30-19:00

讃美歌：48番「しずけきゆうへの」

聖書：ヨハネによる福音書 15章11～17節

讃美歌：187番「主よいのちのこばを」

説教：「私があなたがたを愛したように」

頌栄：541番「ちちみこみたまの」

【説教要旨】

イエスが受難を受ける直前、弟子たちに語ったことばである。わたしたち人間にイエスは「互いに愛し合いなさい」と命じる。「友のために自分の命を捨てる」ほどに愛せ、と。とても不可能だ、と思われる。しかし、イエスご自身は生涯人々を愛し、弱い人々を特に慈しんだ。罪なくして捕らわれ、十字架上で殺された。それはすべての人類、私たちひとりびとりの罪を償うためであった。まさにイエスは私たちすべてを友として、身代わりに命を捨ててくださったのだ。そのイエスというブドウの木に私たちはつながっている。ましてやイエスは十字架に死んだけれど復活された。そうである以上、私たちはイエスにならうことが出来る。イエスが愛してくださったのだから、私たちはそのように、命を捨てても他者を愛せるのだ。

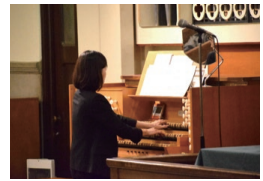
（松本 宣郎）

前奏：J.G.ヴァルター「われらに救い来たれり」

後奏：J.S.バッハ「われらに救い来たれり」BWV638

今回は教会暦に合わせて、受難節前のコラールを使ったJ.G.ヴァルターとJ.S.バッハの作品を選びました。J.G.ヴァルターはJ.S.バッハの従兄であり、18世紀に活躍したドイツの作曲家兼オルガニストです。ヴァルターはドイツコラールに基づいたオルガン作品を数多く残しており、その弾き易さから、日本でも多くのオルガニストが礼拝奏楽曲のレパートリーとしております。

（小野 なおみ）



礼拝とその後の19時00分から30分までの東北学院教職員聖歌隊による賛美に61名の市民が参加されました。

礼拝後、東北学院教職員聖歌隊による賛美

2月の水曜礼拝では、東北学院教職員聖歌隊が合唱による賛美を捧げました。教職員聖歌隊は東北学院教職員の他、OBOGおよび関係者にも広く開かれた合唱団として、昨年5月から月に一度（第四水曜日）、ホーイ記念館地下音楽室で練習を続けてきました。12月の「教職員クリスマス」祝会でクリスマスの讃美歌を歌ってデビューし、この2月水曜礼拝が二度目の発表となります。

はじめに、年末年始にあたってのクリスチャンの心構えを有名なグリーンズリーブスの旋律に乗せてうたった讃美歌第二編152番《ふるいものはみな》をオルガンと合唱し、続いてドイツ民謡をもとにした第二編142番《すみわたる大空に》を混声ユニゾンの独特な響きで賛美しました。そして中川がメンデルスゾーンの傑作オラトリオ《パウロ》をもとにした第二編209番を独唱した後、学院の核として歌い継がれてきた讃美歌121番《まぶねの中に》をア・カペラ（無伴奏）で合唱しました。教職員聖歌隊の提唱者である松本院長先生が見守ってくださる中、賛美を捧げられたことに感謝いたします。ア・カペラの奉唱曲では、水曜礼拝開始当初から奏楽でお支えくださっているオルガニストの小野なおみ先生も合唱に加わってくださり、幸せなひと時となりました。新しい年度も教職員聖歌隊がさらに「歌の環」を拡げていけることを願ってやみません。この一年の歩みをお支えいただいた皆様に感謝いたします。

（中川 郁太郎）



金子謹三 –ランカスターとの懸け橋–

アメリカ東部ペンシルヴェニア州ランカスター市の共同墓地に、一人の日本人の墓があります。墓石には次のように刻まれています。

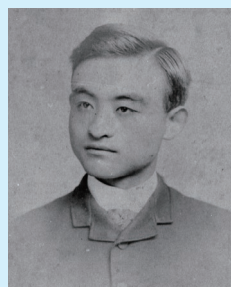
GEORGE KINZO KANEKO
BORN OCT.10.1865
DIED MAY 15.1895
FAITHFUL UNTO DEATH.



金子謹三の墓石

彼の名は、金子謹三。1895（明治28）年5月15日に29歳の若さで亡くなり、死に至るまで信仰に生きて人物であることがわかります。彼は東北学院の卒業生でも教職員でもありません。しかし彼は死後、東北学院に多大なる貢献をすることになるのです。

金子は、岩手県花巻市（当時は里川口村）に生まれ、19歳で大蔵省勤務の兄のアメリカ赴任に伴って渡米し、ランカスターにあるフランクリン・アンド・マーシャル大学（F&M大学）付属のアカデミーに入学しました。そこで金子は、隣接するランカスター神学校に在学中のホーイと出会い、キリスト教信仰へと導かれました。金子はホーイが最初に信仰に導いた日本人となったのです。さらに、ホーイは日本に出発するに際して金子を伴い、ランカスター神学校の2年先輩で同じく日本伝道を志していたシュネーダーを訪ねますが、金子はシュネーダーが初めて出会った日本人ともなりました。



学生時代の金子謹三

金子は、その後F&M大学本科に進学し、さらにランカスター神学校に進んで伝道者への道を歩み始めました。既に東北学院に着任していたホーイとシュネーダーは、金子を神学部の旧約学教授として選任することを決定し、金子はそれを受けて卒業後もさらに一年間特別研究に励みました。しかし、以前から彼の健康を蝕んでいた肺の疾患が急速に悪化し、帰国を目前にして金子は急逝しました。神学校や教会関係者の間で慕われていた金子の異郷の地での英雄的な死は、教会全体に大きな感動を巻き起こし、金子の名を冠した「金子記念基金」への募金は、最終的には外国伝道局予算の年額に相当する二万五千ドルもの巨額に達しました。東北学院理事局は、金子を支えたアメリカの同信の兄弟たちに公式に感謝の意を表し、金子の記憶が長く保持されるように基金を用いることを確約しました。この基金は、ホーイが提案した「金子記念印刷所」（当時働きながら学ぶ学生のために設立された東北学院労働会の印刷部門）の設立のために初めて用いられ、その後シュネーダーが東北学院の存立と発展のために必要であった校地（東二番丁の中学部、南六軒丁の専門部など）の取得のために用いられました。



墓前で記念礼拝（2018年8月8日）

金子謹三の小さな墓石は、東北学院の創立者を輩出したランカスター神学校と本院をつなぐ目に見える印として、また死んでも「信仰によって今もお話している」（ヘブル11：4）キリスト者の証しとして、あの地に置かれています。

ランカスターでもほとんど忘れ去られた金子の生涯をリッチ前学長にお話ししたところ、神学校の主だった方々が墓前礼拝を捧げてくださいました。

（東北学院史資料センター 日野 哲）

宗教センターに期待すること



学校法人東北学院の宗教センター設立を心よりお祝い申し上げます。キリスト教学校のキャンパス・ミニストリーを担う場として、貴センターが学内のみならず多くの方々へ受け入れられて行くことを願います。また、貴センターが学校法人東北学院全体をつなぎ、建学の精神に基づく豊かな働きをなして行けるよう期待します。

東北学院中学校・高等学校校長 阿部 恒幸



東北学院の建学の精神であるキリスト教教育を運営する宗教センターが2020年4月に発足し、大西晴樹センター所長はじめ所員の方々のはたらきに感謝申し上げます。生徒の中には入学式の聖句（ヨハネの福音書15章11-17節）を強く印象に残っている者もあり、センターからのメッセージに生徒及び保護者の皆様に「心の恵み」となる言葉を期待します。

東北学院榴ヶ岡高等学校校長 湯本 良次



宗教センター設立を心よりお喜び申し上げます。園内にチャプレンがおらず、教師もまた未信徒が多い中、子どもたちとの日々の礼拝は神様の愛を明確に伝えているとは言い難い状況でした。宗教センターの設立は幼稚園の宗教活動を高め、発展させていくことと期待しております。礼拝でのメッセージを始め様々連携を図り、清き幼子の心に祈りの種を蒔いていきたいと思っております。

東北学院幼稚園園長 島内 久美子

教職員聖歌隊案内

教職員聖歌隊結成のきっかけは、2018年の教職員クリスマス祝会での松本宣郎（前）理事長の一言でした。松本先生は、学生時代にグリークラブあるいは聖歌隊に属していた現職員数名の名前をあげて、皆さんに「教職員も学生に倣って聖歌隊を作ったらどうだろうか」と提案されました。その場で、これは私がお世話しますと申し上げ、指導は宗教音楽研究所の中川郁太郎特任准教授に依頼、礼拝オルガニストの今井奈緒子教授の熱烈な支持もあり、2019年5月の第4水曜日にホーイ記念館の音楽室で初顔合わせをしました。その時は発起人5名の集まりでしたが、参加者がすぐに増えて現在は各パートに4人は揃うようになっています。今年の2月19日の水曜礼拝では、練習の成果として3曲を礼拝後の音楽による賛美として歌いました。最終的な目的は、バッハに先立つハインリッヒ・シュッツの合唱曲を歌うことで、すでにバッハのクリスマス・オラトリオからコラールの練習をはじめています。

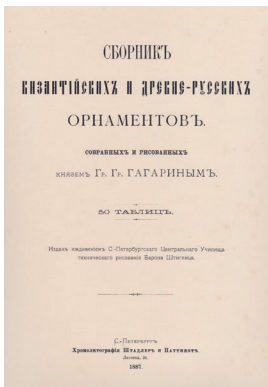
4月からは対面での練習はできず、6月からはZoomで、対面と同じスケジュールで毎月第四水曜日の夜7時から集まっています。次回は9月23日の夜7時です。ZoomのIDとパスワードは宗教センターのホームページに掲載する予定です。学院関係者ならどなたでも大歓迎です。

(鐸木 道剛)



定例第8回練習(2020年1月22日)

表紙の枠飾りについて



水曜通信4年目の2020年度の枠飾りは、帝政ロシア時代にガガーリン公爵が編纂した『ビザンティンと中世ロシアの装飾文様集成』（サンクトペテルブルク、1887年）所載のモチーフから作成しました。全50葉のアルバムの第33葉で、パリの国立図書館蔵の12世紀の写本からです。グリゴリー・グリゴリエヴィチ・ガガーリン公爵（1810-93年）は、富裕な外交官の家系で、プーシキンやレールモントフの友人。ペテルブルグ美術アカデミーの副総裁ともなり、またデザイナーでもありました。

(鐸木 道剛)

ランカスター神学校から東北学院大学へのご挨拶



この困難な時期にみなさんも努力しておられると思います。ランカスターでは、COVID-19伝染病のため、すべての授業と大人数の集まりは全てネット経由になっています。各コースの学生は、Zoomで週2回2時間のミーティングを持っています。それと同時に様々なオンデマンドの集まりがあります。特に効果的なのは「フォーラム」と名付けられた場で、学生は教員による質問に答え、また同じクラスの仲間の学生の回答に反応したりします。これも新しい形の教育で、いろいろ試しています。

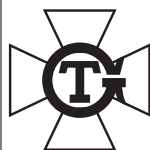
来る9月4日は、5月に修了した学生の学位授与式です。例年よりは規模も小さくなりますが、喜ばしい集まりになると思います。話をしてくださるのは、ランカスター神学校の卒業生で、聖公会の中央ペンシルヴェニア教区の退職主教であるナタン・バクスター師です。学位授与式はランカスター神学校のホームページ (<https://www.lancasterseminary.edu>) から、YouTubeで見られます。

毎週2回の礼拝もまたZoomで実施していますので、どうぞ参加ください。やはりランカスター神学校のホームページから入れます。礼拝は在學生と卒業生が準備しています。今年度の最初の説教は、暫定校長のダヴィド・ロウ博士で、聖務日課にしたがって『出エジプト記』に記された幼児モーセの話をされ、死を扱う (death-dealing) のではなく、命を与える (life-giving) 福音によって恐怖を乗り越える勇気を与えてくれました。これは伝染病だけでなく、深い政治的対立、構造的な人種差別と白人優位についての辛い自覚で苦しむ現代、時宜に叶った内容でした。

人種差別については、ランカスター神学校は、様々な出自の学生を受け入れてきて、人種的正義に関わってきました。しかし充分ではなく、例えばマーサーズバーグ論争で中心的役割を果たしたフィリップ・シャフはヨーロッパ中心主義者で、アフリカ系アメリカ人の徳と価値に関わらなかったため、彼の名前が図書館名から削除されることになりました。

2年次の学生が早ければ来年にでも、仙台を中心に、日本に研修に行くことをとても楽しみにしています。異文化交流は、ランカスター神学校の重要なカリキュラムの一部であり、学生への影響は大きなものがあります。彼らが日本から持ち帰る成果にとっても期待するものです。

ランカスター神学校 (教会史) アン・タイヤー教授 (Dr. Anne Thayer)



いのち

ひかり

あい

東北学院スクールモットー
LIFE LIGHT LOVE (いのち・ひかり・あい)

東北学院宗教センター編「水曜通信」
第1号

2020年9月17日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

発行責任者：宗教センター主任 野村信

編集協力者：鐺木道剛

東北学院宗教センター TEL: 022-264-6558

Email: c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp